

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 事業創造学部 事業創造学科

1 【全体計画審査意見2の回答について】

＜アドミッション・オフィス選抜に関する説明が不明確＞

アドミッション・ポリシー等に関連して以下の点を改善すること。

- （1）アドミッション・オフィス選抜を受験する学生に求める書類として、「調査票、自己推薦書、志望動機書、学修計画書」を求めることが明らかとなったが、学修計画書がアドミッション・オフィス選抜においてどのように活用されるのか、また、どのような記載を求めるのか不明確なため、説明すること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・ 1

- （2）社会人を入学者の対象として受け入れることとしているため、実務の経験を有する者を受け入れる場合の、当該実務経験を通じた能力の修得を勘案した既修得単位の認定方針を、具体例を挙げて説明すること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・ 4

- （3）留学生を入学者の対象として受け入れることとしているため、一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者を受け入れると説明がなされているが、例えば日本語能力試験等の基準の具体例を挙げて説明すること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・ 7

2 【全体計画審査意見3の回答について】

＜学生確保の見通しの分析方法に疑義＞

学生確保の見通しとその妥当性について一定の説明がなされ、根拠資料の一つとして大学の目標に応じた適切な比較対象の大学が選ばれたが、競合校の3年間の入学定員充足率の平均倍率を示して本学の学生が確保できるとする説明は誤解を招くため、入学定員充足率の平均倍率を根拠には含めないよう、記載を修正すること。

（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 【全体計画審査意見5の回答について】

＜教育水準に疑義のある科目＞

いまだ「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容について、卒業に必要な単位に算入する大学水準の教育内容であるか疑義があるため、以下の点を明らかにすること。

- （1）学習方法、学習課題に事例研究、ディスカッション、ロールプレイング等が挙げられているが、シラバスに記載された内容だけでは具体的な教育手法や内容が判断できない

ため、各授業回で取り上げるテーマをより具体的に説明すること。

(是正事項) 1 2

(2) 効果的な学習のため授業計画の初期に議論をまとめる方法や手法などの基礎的な理論を学ぶ授業計画及びシラバスに改めること。

(是正事項) 1 5

(3) 使用する教科書は「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」すべて、実践ビジネスマナーや就職ガイド等の書籍が指定されており、授業科目の概要に記載された教育が適切に行われるのか疑義がある。教科書について大学水準の教育内容にふさわしい書籍であることを説明するか、必要に応じて改めること。

(是正事項) 1 7

4 【全体計画審査意見 7 の回答について】

＜科目の履修条件が不相当＞

「会计学」や「財務諸表論」の効果的な学修の観点から、当該科目の履修前に、簿記に関する科目を取得するカリキュラム体系に改めること。

(是正事項) 1 9

5 【全体計画審査意見 15 の回答について】

＜教員の年齢構成が高齢に偏っている＞

完成年度以降の専任教員配置の適正化を図る将来構想が示されたが、いまだ教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、示された将来構想を踏まえ、完成年度までの年次進行中における若手教員の採用計画などを明らかにし、教員配置の適正化を図ること。

(改善事項) 2 0

6 【全体計画審査意見 18 の回答について】

＜電子ジャーナルが十分か疑義＞

大学の教育研究に必要な専攻分野の電子ジャーナルが十分整備されているのか懸念されるため、教育研究の観点から十分であることを説明するか、電子ジャーナル数を充実させること。

(改善事項) 2 6

(是正事項) 事業創造学部 事業創造学科

1 【全体計画審査意見2の回答について】

＜アドミッション・オフィス選抜に関する説明が不明確＞

アドミッション・ポリシー等に関連して以下の点を改善すること。

- (1) アドミッション・オフィス選抜を受験する学生に求める書類として、「調査票、自己推薦書、志望動機書、学修計画書」を求めることが明らかとなったが、学修計画書がアドミッション・オフィス選抜においてどのように活用されるのか、また、どのような記載を求めるのか不明確なため、説明すること。

(対応)

学修計画書がアドミッション・オフィス選抜においてどのように活用されるのか、また、どのような記載を求めるのかについて説明した。

アドミッション・オフィス選抜を受験する学生に求める志望動機書は、事業創造学部を志望する理由及び将来の希望進路などについて記載させることとしている一方、学修計画書は、志願者本人が志望動機書に記載した将来の希望進路を実現するために、事業創造学部の特色をふまえてどのような知識や能力を身に付けたいのか、その学修の計画について記載させることとする。

このことにより、事業創造学部の教育内容と志願者が求める学習内容とに齟齬がないかを見極めるとともに、事業創造学部の教育に対する興味と関心の度合いや学習意欲についてアドミッション・ポリシーに照らして判定するため、出願書類の評価内容の一部として使用する。

アドミッション・オフィス選抜における学修計画書で求める具体的な記載内容は、以下の通りとしている。

- 1 志望動機書に記載した将来の目標について
- 2 将来の目標を実現するために、身に付けたい「知識」「能力」について
- 3 当該「知識」「能力」を身に付けるために、どのような学習をしたいのか、その計画について

【資料1】アドミッション・オフィス選抜を受験する学生に求める書類

「学修計画書書式」「志望動機書書式」

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (58-59ページ)

新	旧
(3) 選抜方法 3) アドミッション・オフィス選抜 アドミッション・オフィス選抜は、詳細な	(3) 選抜方法 3) アドミッション・オフィス選抜 アドミッション・オフィス選抜は、詳細な

書類審査と時間を掛けた丁寧な面接を組み合わせることにより、入学志願者の学部教育を受けるための適性或学部教育に対する学習意欲、目的意識等を総合的に判定することとしており、アドミッション・オフィス選抜を受験する者に対して、調査票、自己推薦書、志望動機書、学修計画書を求めることとする。 志望動機書は、当該学部を志望する理由及び将来の希望進路などについて記載させることとしており、自己推薦書は、生徒活動や部活動の役員歴、部活動や課外活動などの活動実績、取得資格、留学や渡航経験、自己の長所や短所などについて記載させることとしている。 <u>学修計画書は、志願者本人が志望動機書に記載した将来の希望進路を実現するために、当該学部の特色をふまえてどのような知識や能力を身に付けたいのか、その学修の計画について記載させることとする。このことにより、当該学部の教育内容と志願者が求める学習内容とに齟齬がないかを見極めるとともに、当該学部の教育に対する興味と関心の度合いや学習意欲についてアドミッション・ポリシーに照らして判定するため、出願書類の評価内容の一部として使用する。</u> <u>アドミッション・オフィス選抜における学修計画書で求める具体的な記載内容は、以下の通りとしている。</u> <u>1 志望動機書に記載した将来の目標について</u> <u>2 将来の目標を実現するために、身に付けたい「知識」「能力」について</u> <u>3 当該「知識」「能力」を身に付けるために、どのような学習をしたいのか、その計画について</u>	書類審査と時間を掛けた丁寧な面接を組み合わせることにより、入学志願者の学部教育を受けるための適性或学部教育に対する学習意欲、目的意識等を総合的に判定することとしており、アドミッション・オフィス選抜を受験する者に対して、調査票、自己推薦書、志望動機書、学修計画書を求めることとする。 志望動機書は、当該学部を志望する理由及び将来の希望進路などについて記載させることとしており、自己推薦書は、生徒活動や部活動の役員歴、部活動や課外活動などの活動実績、取得資格、留学や渡航経験、自己の長所や短所などについて記載させることとしている。 <u>(追加)</u>
--	--

なお、入学手続きをとった者に対しては、出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備を予め用意することとする。	なお、入学手続きをとった者に対しては、出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備を予め用意することとする。
---	---

(是正事項) 事業創造学部 事業創造学科

1 【全体計画審査意見2の回答について】

＜アドミッション・オフィス選抜に関する説明が不明確＞

アドミッション・ポリシー等に関連して以下の点を改善すること。

- (2) 社会人を入学者の対象として受け入れることとしているため、実務の経験を有する者を受け入れる場合の、当該実務経験を通じた能力の修得を勘案した既修得単位の認定方針を、具体例を挙げて説明すること。

(対応)

社会人を入学者の対象として受け入れる場合の既修得単位の認定方針について認定の流れを明らかにしつつ、具体例を用いて説明した。

既修得単位の認定の流れについては、以下の通りとなる。

- ① 入学試験合格後、社会人入学者本人より既修得単位認定に係る申請
- ② 既修得単位認定のための面談により能力を確認
- ③ 教務委員会による審議
- ④ 教授会による審議
- ⑤ 学長より既修得単位認定 (2～30 単位)

事業創造学部における社会人を受け入れる際の当該実務経験を通じた能力の修得を勘案した既修得単位の認定をする場合の具体例としては、民間企業等において会計実務に従事している者、あるいは、従事した実績がある者が入学を希望する場合、取得している資格や実務経験の状況等を総合的に勘案して、「職業専門科目」に配置している「簿記概論」及び「簿記演習」の単位を既修得単位として認定することなどが想定される。

なお、既修得単位の認定において、考慮する資格については、経営学検定、内閣府認定マーケティング検定、簿記検定、中小企業診断士試験などとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (48－49 ページ)

新	旧
(5) 入学前の実務経験を単位に換算する場合 本学では学則第 32 条第 3 項において、学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力を修得している場合には、当該実践的な能力の修得を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができることとしている。 職業専門科目及び展開科目の単位認定は、	(5) 入学前の実務経験を単位に換算する場合 本学では学則第 32 条第 3 項において、学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力を修得している場合には、当該実践的な能力の修得を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができることとしている。 職業専門科目及び展開科目の単位認定は、

専門性が求められる職業に係る実務の経験を有し、かつ、法令の規定に基づく職業資格又は法令に基づく技能検定、技能審査その他の実務の能力に関する審査等であり、当該学科の授業科目において修得させることとしている実践的な能力と同等以上の能力を修得していると認められる場合である。 臨地実務実習の単位認定は、専門性が求められる職業に係る実務の経験を有し、かつ、当該職業における実務上の業績を有することにより、当該学科の授業科目において修得させることとしている実践的な能力と同等以上の能力を修得していると認められる場合である。 これらの単位認定に当たっては、学生本人からの申し出により 30 単位を超えない範囲で教授会の議を経て、学長が決定する。 <u>既修得単位の認定の流れについては、以下の通りとなる。</u> ① <u>入学試験合格後、社会人入学者本人より既修得単位認定に係る申請</u> ② <u>既修得単位認定のための面談により能力を確認</u> ③ <u>教務委員会による審議</u> ④ <u>教授会による審議</u> ⑤ <u>学長より既修得単位認定（2～30 単位）</u> <u>事業創造学部における社会人を受け入れる際の当該実務経験を通じた能力の修得を勘案した既修得単位の認定をする場合の具体例としては、民間企業等において会計実務に従事している者、あるいは、従事した実績がある者が入学を希望する場合、取得している資格や実務経験の状況等を総合的に勘案して、「職業専門科目」に配置している「簿記概論」及び「簿記演習」の単位を既修得単位として認定することなどが想定される。</u>	専門性が求められる職業に係る実務の経験を有し、かつ、法令の規定に基づく職業資格又は法令に基づく技能検定、技能審査その他の実務の能力に関する審査等であり、当該学科の授業科目において修得させることとしている実践的な能力と同等以上の能力を修得していると認められる場合である。 臨地実務実習の単位認定は、専門性が求められる職業に係る実務の経験を有し、かつ、当該職業における実務上の業績を有することにより、当該学科の授業科目において修得させることとしている実践的な能力と同等以上の能力を修得していると認められる場合である。 これらの単位認定に当たっては、学生本人からの申し出により 30 単位を超えない範囲で教授会の議を経て、学長が決定する。 <u>（追加）</u>
---	--

<u>なお、既修得単位の認定において、考慮する資格については、経営学検定、内閣府認定マーケティング検定、簿記検定、中小企業診断士試験などとする。</u> (中略)	
---	--

(是正事項) 事業創造学部 事業創造学科

1 【全体計画審査意見2の回答について】

＜アドミッション・オフィス選抜に関する説明が不明確＞

アドミッション・ポリシー等に関連して以下の点を改善すること。

- (3) 留学生を入学者の対象として受け入れることとしているため、一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者を受け入れると説明がなされているが、例えば日本語能力試験等の基準の具体例を挙げて説明すること。

(対応)

留学生を入学者として受け入れる際の、一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者について説明した。

留学生を入学者として受け入れる際の一般学生と同じ条件のもとに学修が可能とする日本語能力の基準は、日本語能力試験N2以上の資格に相当する日本語能力を有する者、又は日本留学試験の日本語科目（読解、聴解及び聴読解）において200点以上に相当する日本語能力を有する者とし、学生募集要項に明記する。

留学生の入学志願者に対しては、他の入学志願者と同様に詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接を行うことにより、一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者かどうか日本語能力の習得状況等を見極めることとし、入学志願者の学部教育を受けるための適性や学部教育に対する学習意欲、目的意識等を総合的に判定することとする。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (60ページ)

新	旧
(5) 社会人や留学生の入学に関する考え方 社会人や留学生の入学に関する考え方については、専門職大学としての入学者の多様性に配慮した入学者選抜の観点から、社会人や留学生についても入学者の対象として受け入れることとしているが、完成年度までの間は社会人や留学生の定員枠の設定や社会人や留学生に特化した入学者選抜の設定は行わず、一般選抜試験の定員枠の中で、一般選抜試験の選抜方法により受け入れることとし、入学後の履修等においても一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者について受け入れることとする。 <u>留学生を入学者として受け入れる際の一</u>	(5) 社会人や留学生の入学に関する考え方 社会人や留学生の入学に関する考え方については、専門職大学としての入学者の多様性に配慮した入学者選抜の観点から、社会人や留学生についても入学者の対象として受け入れることとしているが、完成年度までの間は社会人や留学生の定員枠の設定や社会人や留学生に特化した入学者選抜の設定は行わず、一般選抜試験の定員枠の中で、一般選抜試験の選抜方法により受け入れることとし、入学後の履修等においても一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者について受け入れることとする。 <u>(追加)</u>

<u>一般学生と同じ条件のもとに学修が可能とする日本語能力の基準は、日本語能力試験N2以上の資格に相当する日本語能力を有する者、又は日本留学試験の日本語科目（読解、聴解及び聴読解）において200点以上に相当する日本語能力を有する者とし、学生募集要項に明記する。</u> <u>留学生の入学志願者に対しては、他の入学志願者と同様に詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接を行うことにより、一般学生と同じ条件のもとに学修が可能な者かどうか日本語能力の習得状況等を見極めることとし、入学志願者の学部教育を受けるための適性や学部教育に対する学習意欲、目的意識等を総合的に判定することとする。</u>	
--	--

(改善事項) 事業創造学部 事業創造学科

2 【全体計画審査意見3の回答について】

＜学生確保の見通しの分析方法に疑義＞

学生確保の見通しとその妥当性について一定の説明がなされ、根拠資料の一つとして大学の目標に応じた適切な比較対象の大学が選ばれたが、競合校の3年間の入学定員充足率の平均倍率を示して本学の学生が確保できるとする説明は誤解を招くため、入学定員充足率の平均倍率を根拠には含めないよう、記載を修正すること。

(対応)

学生確保の見通しとその妥当性について、競合校の3年間の入学定員充足率の平均倍率を示して本学の学生が確保できるとする説明としていたが、競合校の3年間の入学定員充足率の平均倍率を示して本学の学生が確保できるとする説明は誤解を招くとの審査意見を踏まえて検討した結果、入学定員充足率の平均倍率を根拠には含めないよう、記載を修正した。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類(4-5ページ)

新	旧
5 新設学部等の分野の動向及び想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況 1) 事業創造学部 (中略) また、新潟県内において事業創造学部と同分野を有する大学で、かつ競合が想定される大学は、平成30年4月現在、新潟経営大学経営情報学部経営情報学科(入学定員120人)、新潟産業大学経済学部経済経営学科(入学定員80人)、長岡大学経済経営学部経済経営学科(入学定員80人)、新潟国際情報大学経営情報学部経営学科(入学定員85人)で、各大学が公表している入試方式の集計値による最近3年間の平均の志願者状況をみると、募集人員422人に対して志願者数835人、志願倍率約1.98倍 <u>(削除)</u> となっている。(表5) (表5) 最近3年間の志願者状況等	5 新設学部等の分野の動向及び想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況 1) 事業創造学部 (中略) また、新潟県内において事業創造学部と同分野を有する大学で、かつ競合が想定される大学は、平成30年4月現在、新潟経営大学経営情報学部経営情報学科(入学定員120人)、新潟産業大学経済学部経済経営学科(入学定員80人)、長岡大学経済経営学部経済経営学科(入学定員80人)、新潟国際情報大学経営情報学部経営学科(入学定員85人)で、各大学が公表している入試方式の集計値による最近3年間の平均の志願者状況をみると、募集人員422人に対して志願者数835人、志願倍率約1.98倍、<u>入学定員充足率103.8%</u>となっている。(表5) (表5) 最近3年間の志願者状況等

事業創造学部との競合が想定される新潟県の大学の最近３年間の志願者状況等 －表－ 一方、新潟県の平成３０年度学校基本統計速報によると、新潟県内の専門学校において事業創造学部と学問として対象とする分野が同一であると考えられる商業実務関係のビジネス、経営、経理・簿記に関する学科等に在籍している生徒数は８１５人となっている。（表６） （表６）専門学校の学科別生徒数（経理・簿記、経営、ビジネス） －表－ このように、事業創造学部との競合が想定される新潟県内の大学の学部・学科では、１８歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と志願倍率 <u>（削除）</u> を維持しているとともに、事業創造学部と学問として対象とする分野が同一であると考えられる新潟県内の専門学校の学科等においても一定数の在籍者が存在していることから、事業創造学部の学生確保については見通しがあると考えられる。 （中略）	事業創造学部との競合が想定される新潟県の大学の最近３年間の志願者状況等 －表－ 一方、新潟県の平成３０年度学校基本統計速報によると、新潟県内の専門学校において事業創造学部と学問として対象とする分野が同一であると考えられる商業実務関係のビジネス、経営、経理・簿記に関する学科等に在籍している生徒数は８１５人となっている。（表６） （表６）専門学校の学科別生徒数（経理・簿記、経営、ビジネス） －表－ このように、事業創造学部との競合が想定される新潟県内の大学の学部・学科では、１８歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と志願倍率<u>や入学定員充足</u>の状況を維持しているとともに、事業創造学部と学問として対象とする分野が同一であると考えられる新潟県内の専門学校の学科等においても一定数の在籍者が存在していることから、事業創造学部の学生確保については見通しがあると考えられる。 （中略）
---	---

新

(表5) 最近3年間の志願者状況等

事業創造学部との競合が想定される新潟県の大学の最近3年間の志願者状況等

大学名	学部・学科	入学 定員	年度	入試区分	募集人員	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 充足率
新潟経営大学	経営情報学部	120	平成28年4月	全入試合計	120	180	1.50	99	82.5%
	経営情報学科		平成29年4月	全入試合計	120	210	1.75	106	88.3%
			平成30年4月	全入試合計	120	187	1.56	103	85.8%
			3年間の平均		120	192	1.60	103	
新潟産業大学	経済学部	80	平成28年4月	全入試合計	80	114	1.43	77	96.3%
	経済経営学科		平成29年4月	全入試合計	80	119	1.49	72	90.0%
			平成30年4月	全入試合計	80	132	1.65	65	81.3%
			3年間の平均		80	122	1.52	71	
長岡大学	経済経営学部	80	平成28年4月	全入試合計	80	127	1.59	85	106.3%
	経済経営学科		平成29年4月	全入試合計	100	150	1.50	121	121.0%
			平成30年4月	全入試合計	100	187	1.87	121	121.0%
			3年間の平均		93	155	1.66	109	
新潟国際情報大学	経営情報学部	85	平成28年4月	全入試合計	150	383	2.55	185	123.3%
	経営学科		平成29年4月	全入試合計	150	358	2.39	200	133.3%
	(平成28年・平成29年は情報文化学部 (情報コース、経営コース)の数値)		平成30年4月	全入試合計	85	359	4.22	105	123.5%
			3年間の平均		128	367	2.86	105	
4大学の3年間の平均志願状況					422	835	1.98		

旧

(表5) 最近3年間の志願者状況等

事業創造学部との競合が想定される新潟県の大学の最近3年間の志願者状況等

大学名	学部・学科	入学 定員	年度	入試区分	募集人員	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 充足率
新潟経営大学	経営情報学部	120	平成28年4月	全入試合計	120	180	1.50	99	82.5%
	経営情報学科		平成29年4月	全入試合計	120	210	1.75	106	88.3%
			平成30年4月	全入試合計	120	187	1.56	103	85.8%
			3年間の平均倍率		120	192	1.60	103	85.6%
新潟産業大学	経済学部	80	平成28年4月	全入試合計	80	114	1.43	77	96.3%
	経済経営学科		平成29年4月	全入試合計	80	119	1.49	72	90.0%
			平成30年4月	全入試合計	80	132	1.65	65	81.3%
			3年間の平均倍率		80	122	1.52	71	89.2%
長岡大学	経済経営学部	80	平成28年4月	全入試合計	80	127	1.59	85	106.3%
	経済経営学科		平成29年4月	全入試合計	100	150	1.50	121	121.0%
			平成30年4月	全入試合計	100	187	1.87	121	121.0%
			3年間の平均倍率		93	155	1.66	109	116.8%
新潟国際情報大学	経営情報学部	85	平成28年4月	全入試合計	150	383	2.55	185	123.3%
	経営学科		平成29年4月	全入試合計	150	358	2.39	200	133.3%
	(平成28年・平成29年は情報文化学部 (情報コース、経営コース)の数値)		平成30年4月	全入試合計	85	359	4.22	105	123.5%
			3年間の平均倍率		128	367	2.86	105	123.5%
(追加)3年間の平均倍率 (追加)					422	835	1.98	388	103.8%

3 【全体計画審査意見5の回答について】

＜教育水準に疑義のある科目＞

いまだ「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容について、卒業に必要な単位に算入する大学水準の教育内容であるか疑義があるため、以下の点を明らかにすること。

- (1) 学習方法、学習課題に事例研究、ディスカッション、ロールプレイング等が挙げられているが、シラバスに記載された内容だけでは具体的な教育手法や内容が判断できないため、各授業回で取り上げるテーマをより具体的に説明すること。

(対応)

「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容が、卒業に必要な単位に算入する大学水準の教育内容であることを示すために、シラバスにおける各授業回で取り上げるテーマが具体的となるよう、資料2の通り、シラバスを改めた。

【資料2】新キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス (授業計画)

【資料3】旧キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス (授業計画)

□キャリアデザインⅠ

- 1 テーマ：キャリアデザインの概念、キャリア形成において育成すべき能力の理解

内容：キャリアデザインの概念、意義、目的及びキャリア形成において必要となる基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を理解する。（この四つの能力は中央教育審議会が「社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして示した「基礎的・汎用的能力」）

※講義

- 2 テーマ：ファシリテーション論の理解

内容：議論の目的と進め方や議論をまとめる方法や手法について理解する。※講義

- 3 テーマ：ファシリテーションの実践

内容：議論の場面を設定し、議論の進め方の問題点や解決方法を理解する。

※ロールプレイング

- 4 テーマ：キャリアデザインに必要となるキャリア理論の理解

内容：ドナルド・スーパーの「ライフ・キャリア・レインボウ（人生における役割とキャリアの関係を図式化したもの）」などを手掛かりに、キャリア理論の基礎的諸概念を理解する。※講義

- 5 テーマ：モチベーション論の理解

内容：様々なモチベーション論の提示する諸概念を理解する。

※講義

- 6 テーマ：目標設定と目標管理の方法の理解
内容：目標設定と目標管理に関する方法を講義するとともに、成功例や失敗例を取り上げて、目標設定の効果が最大化される条件を考察する。
※講義、事例研究、ディスカッション
- 7 テーマ：目標設定の実践①
内容：目標設定シートの作成方法と目標設定シートの有効的な活用法について理解する。※演習
- 8 テーマ：目標設定の実践②
内容：目標設定シートの作成と発表を通して、目標の質を高めることについて理解する。
※ディスカッション

□キャリアデザインⅡ

- 1 テーマ：キャリアデザインの概念、チームの力を最大化するための方法の理解
内容：仕事を進めるうえでの基礎力となる対人能力、対自己能力、対課題能力、処理力・思考力を理解する。※講義
- 2 テーマ：チームワーク、協働力の重要性の理解
内容：チームワーク、協働力の意義や定義と重要性及びグループとチームの違いについて社会学やキャリア理論を踏まえて理解する。※講義
- 3 テーマ：チームワーク、協働力に関する事例研究①
内容：仕事におけるチームワークのあり方や協働力の重要性について、事例を取り上げて考察する。
※事例研究
- 4 テーマ：チームワーク、協働力に関する事例研究②
内容：社会・組織・集団における人間関係のあり方について、事例を取り上げて考察する。
※事例研究
- 5 テーマ：統率力、リーダーシップ理論、動機づけ理論の理解
内容：リーダーシップの意味や定義と種類及び能力や要素と開発方法について理解する。※講義
- 6 テーマ：会話コミュニケーションによる相互信頼感形成に向けた理解
内容：会話コミュニケーションを通じた合意形成が人間関係としての心理的な相互信頼感の構築にどのように影響するかを理解する。※講義
- 7 テーマ：組織マネジメントとリーダーシップとの関係性の理解
内容：目的や方向に向かって多くの人々をまとめて率いるための方法について考察する。※事例研究

8 テーマ：他者との協調・協働の考察

内容：他者と協調・協働して行動することの重要性や留意点について考える。

※ディスカッション

□キャリアデザインⅢ

1 テーマ：キャリアデザインの内容、プロフェッショナルキャリアの理解

内容：プロの専門職業人として活躍するための条件、道筋、必要なスキルを理解する。

※講義

2 テーマ：職業選択のための考え方の理解

内容：キャリアアンカー（重要な価値観）の理論を踏まえて、仕事の選び方や仕事を選ぶときに重視する項目など職業選択について理解する。

※講義

3 テーマ：企業の人事担当者からの学び

内容：企業理念や経営方針と企業の仕組み及び企業が求める人材像について考察する。

※ゲストスピーカー

4 テーマ：専門職業人からの学び

内容：職業選択のための基礎知識として、業界・業種・職種などへの理解を深める。

※ゲストスピーカー

5 テーマ：企業についての研究と考察

内容：業界・業種・職種毎に企業が求める人材像と企業の仕組みについて考える。

※ディスカッション

6 テーマ：自己分析の目的と方法の理解

内容：自分の個性や性格を理解するための自己分析の目的と自己分析の方法について理解する。 ※講義

7 テーマ：自己分析の実践

内容：自分史の作成と発表を通して、自分の資質や能力についての認識を深める。

※演習、ディスカッション

8 テーマ：生涯現役のキャリアデザインについて考える

内容：生涯学習の意義と方法や生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育について理解する。 ※講義

3 【全体計画審査意見5の回答について】

＜教育水準に疑義のある科目＞

いまだ「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容について、卒業に必要な単位に算入する大学水準の教育内容であるか疑義があるため、以下の点を明らかにすること。

(2) 効果的な学習のため授業計画の初期に議論をまとめる方法や手法などの基礎的な理論を学ぶ授業計画及びシラバスに改めること。

(対応)

「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容について、効果的な学習のための授業計画となるよう、教育計画の第一段階を担う「キャリアデザインⅠ」においてはキャリアとは何か、キャリア教育とは何かといったキャリア理論の基礎概念、モチベーションに関する様々な理論といった基礎概念の理解に重点を置くとともに、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成等のあらゆる知識創造活動を支援し促進していくファシリテーションの方法を学ぶ。これを踏まえ、資料2の通り、シラバスを改めた。

【資料2】新キャリアデザインⅠ シラバス (授業計画)

【資料3】旧キャリアデザインⅠ シラバス (授業計画)

1 テーマ：キャリアデザインの概念、キャリア形成において育成すべき能力の理解

内容：キャリアデザインの概念、意義、目的及びキャリア形成において必要となる基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)を理解する。(この四つの能力は中央教育審議会が「社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして示した「基礎的・汎用的能力」) ※講義

2 テーマ：ファシリテーション論の理解

内容：議論の目的と進め方や議論をまとめる方法や手法について理解する。 ※講義

3 テーマ：ファシリテーションの実践

内容：議論の場面を設定し、議論の進め方の問題点や解決方法を理解する。

※ロールプレイング

4 テーマ：キャリアデザインに必要となるキャリア理論の理解

内容：ドナルド・スーパーの「ライフ・キャリア・レインボウ(人生における役割とキャリアの関係を図式化したもの)」などを手掛かりに、キャリア理論の基礎的諸概念を理解する。

※講義

5 テーマ：モチベーション論の理解

内容：様々なモチベーション論の提示する諸概念を理解する。

※講義

6 テーマ：目標設定と目標管理の方法の理解

内容：目標設定と目標管理に関する方法を講義するとともに、成功例や失敗例を取り上げて、目標設定の効果が最大化される条件を考察する。

※講義、事例研究、ディスカッション

7 テーマ：目標設定の実践①

内容：目標設定シートの作成方法と目標設定シートの有効的な活用法について理解する。※演習

8 テーマ：目標設定の実践②

内容：目標設定シートの作成と発表を通して、目標の質を高めることについて理解する。

※ディスカッション

3 【全体計画審査意見5の回答について】

＜教育水準に疑義のある科目＞

いまだ「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」の教育内容について、卒業に必要な単位に算入する大学水準の教育内容であるか疑義があるため、以下の点を明らかにすること。

- (3) 使用する教科書は「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」すべて、実践ビジネスマナーや就職ガイド等の書籍が指定されており、授業科目の概要に記載された教育が適切に行われるのか疑義がある。教科書について大学水準の教育内容にふさわしい書籍であることを説明するか、必要に応じて改めること。

(対応)

「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」に使用する教科書について、授業科目の概要に記載された教育が適切に行われるのか疑義があるとの審査意見を踏まえて検討した結果、「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」において使用する教科書について、キャリアデザインⅠにおいては、授業計画の初期に基礎的な理論を学ぶことが必要との指摘を踏まえ、キャリア教育について学ぶ上で定評のある「キャリア教育基礎論」(著者は元文科省キャリア教育担当調査官)、ファシリテーションの入門テキストとして多くの大学や企業で採用されこの分野の標準テキストとなっている「ファシリテーション入門」及びモチベーション理論の百年以上の歴史を踏まえて現存する諸理論を相互に関連づけながら網羅した「ワーク・モチベーション」(原著者のゲイリー・レイサムはトロント大学ロットマン経営大学院教授)を参考書として指定するとともに、基礎概念の着実な理解を助けるため、これらの参考書に基づいて、毎回授業レジュメを配布する。キャリアデザインⅡ・Ⅲについては、大阪大学で開講されているキャリアデザイン概論の参考書籍として使用されている「キャリアデザイン入門Ⅰ」[Ⅱ](日本経済出版社)を参考書として指定するとともに、キャリアデザインⅡについては協働力、統率力等のコミュニケーション力育成のための教育内容に適する、編者ハーバード・ビジネス・レビュー編集部「コミュニケーションの教科書」を参考書として指定し、これらの参考書に基づいて、毎回授業レジュメを配布する。

本学の授業科目の概要に記載した教育を適切に行える大学水準の教育内容にふさわしい書籍と判断し同書を教科書に指定する。これを踏まえ、資料2の通り、シラバスを改めた。

【資料2】新キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス (授業計画)

【資料3】旧キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス (授業計画)

(新旧対照表)

新	旧
【キャリアデザインⅠ】	【キャリアデザインⅠ～Ⅲ】

(教科書) ・<u>毎回、授業レジュメを配付する。</u> (参考書) ・『<u>キャリア教育基礎論－正しい理解と実践のために－</u>』実業之日本社, 2014 年 10 月 ・『<u>ファシリテーション入門 (第 2 版)</u>』日本経済新聞出版社, 2018 年 ・『<u>ワーク・モチベーション</u>』NTT 出版, 2009 年 6 月 (その他資料) ・<u>適宜、ワークシートを配付する。</u> 【キャリアデザインⅡ】 (教科書) ・<u>毎回、授業レジュメを配付する。</u> (参考書) ・『<u>キャリアデザイン入門[Ⅰ]</u>』日本経済新聞出版社, 2006 年 3 月 ・『<u>ハーバード・ビジネス・レビューコミュニケーション論文ベスト 10「コミュニケーションの教科書</u>』, ダイヤモンド社, 2018 年 12 月 (その他資料) ・<u>適宜、ワークシートを配付する。</u> 【キャリアデザインⅢ】 (教科書) ・<u>毎回、授業用レジュメを配付する。</u> (参考書) ・『<u>キャリアデザイン入門[Ⅱ]</u>』日本経済新聞出版社, 2006 年 3 月 (その他資料) ・<u>適宜、ワークシートを配付する。</u>	(教科書) ・『<u>社会でいきる実践ビジネスマナー</u>』, (株)ウィネット, 2016 年 2 月 ・『<u>勝つための就職ガイド SUCCESS</u>』, (株)ウィネット, 2016 年 2 月 (参考書) ・『<u>大人の常識！マナーハンドブック</u>』, (株)ウィネット, 2016 年 2 月 (その他の資料) ・『<u>SUCCESS 別冊ワークシート</u>』, (株)ウィネット, 2016 年 2 月
---	--

(是正事項) 事業創造学部 事業創造学科

4 【全体計画審査意見7の回答について】

＜科目の履修条件が不適当＞

「会計学」や「財務諸表論」の効果的な学修の観点から、当該科目の履修前に、簿記に関する科目を取得するカリキュラム体系に改めること。

(対応)

「会計学」や「財務諸表論」の効果的な学修の観点から、カリキュラム体系について再検討し、実務的な「簿記概論」「簿記演習」を学修してから理論面の「会計学」「財務諸表論」を学修することで、より効果的なカリキュラム体系となると判断し、「会計学」、「財務諸表論」、「簿記概論」、「簿記演習」の4科目について、配当年次を改めた。

【資料4】事業創造学部 事業創造学部 カリキュラム体系図

(新旧対照表) 教育課程等の概要 職業専門科目

新								旧							
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態		
			必修	選択	講義	演習	実験・実習				必修	選択	講義	演習	実験・実習
職業専門 科目	会計学	2②	1		○			職業専門 科目	会計学	1②	1		○		
	財務諸表論	2③	1		○				財務諸表論	1③	1		○		
	簿記概論	1①②	2		○				簿記概論	2①②	2		○		
	簿記演習	1③	1			○			簿記演習	2③	1			○	

(改善事項) 事業創造学部 事業創造学科

5 【全体計画審査意見 15 の回答について】

＜教員の年齢構成が高齢に偏っている＞

完成年度以降の専任教員配置の適正化を図る将来構想が示されたが、いまだ教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、示された将来構想を踏まえ、完成年度までの年次進行中における若手教員の採用計画などを明らかにし、教員配置の適正化を図ること。

(対応)

教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、完成年度における年齢層の高い専任教員の定年退職を見据えた、年次進行中における若手教員の前倒し採用に係る採用計画を策定し、当該採用計画に基づく年次進行中における若手教員の確保にむけた継続的な採用活動を通して、教員配置の適正化に努めることとする。

事業創造学部事業創造学科 専任教員配置計画

教員配置計画	
令和2年度～令和5年度（完成年度）末 完成年度までの年次進行中における若手教員採用計画	
採用活動 予定	完成年度までの年次進行中において、公募等により以下の教員の採用を計画する。 ・博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する若手教員 ・高度の実務の能力を有する若手教員 以上の若手教員を年度進行中に複数名を前倒しで採用する。 その後も採用活動を継続して令和6年度開始時点では完成年度に定年年齢を超える教員数に相当する若手・中堅教員の確保をする。
令和5年度（完成年度）末	
退職予定	・定年規定により教授7名、准教授2名が退職予定 ※教授7名、准教授2名は就業規則附則第3項の規程に基づき雇用延長
昇格予定	・経営学分野の准教授1名及び法学分野の准教授1名について、教育研究業績等の評価に基づき教授に昇格予定 ・会計学分野の講師1名及び社会学分野の講師1名について、教育研究業績等の評価に基づき准教授に昇格予定 ・会計学分野の助教1名について、教育研究業績等の評価に基づき

	講師に昇格予定
新規採用予定	※令和2年度～令和5年度において採用した若手教員を含め、令和6年度開始時点では完成年度に定年年齢を超える教員数に相当する若手・中堅教員の確保をする。 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授4名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の教授2名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する若手の准教授2名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、会計学分野に関する研究実績を有する若手の助教1名を採用
令和6年度～令和9年度	
退職予定	・定年規定により教授1名、准教授2名が退職予定
新規採用予定	・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の准教授2名を採用

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (41 - 42 ページ)

新	旧
5) (削除) 教員組織構想 事業創造学部教員の編成においては、完成年度までに定年に達する者9人を配置することから、(削除)教員組織構想(削除)は、開設後4年間の中堅教員の育成状況を踏まえた学内昇格や年次進行中の若手教員新規採用など、教員組織に関する中期的な人事計画を策定する。 開学時は、教員組織が高齢に偏ることとなったことから、教育研究の継続性の観点を踏まえたうえで、中長期的な教育研究の維持・向上及び活性化を図る観点から、今後における学部ごとの具体的な専任教員の	5) 完成年度後の教員組織構想 事業創造学部教員の編成においては、完成年度までに定年に達する者9人を配置することから、完成年度以後の教員組織構想としては、開設後4年間の中堅教員の育成状況を踏まえた学内昇格や(追加)新規採用など、教員組織に関する中期的な人事計画を策定する。 開学時は、教員組織が高齢に偏ることとなったことから、教育研究の継続性の観点を踏まえたうえで、中長期的な教育研究の維持・向上及び活性化を図る観点から、今後における学部ごとの具体的な専任教員の

採用計画について検討し、年齢層の高い専任教員の定年退職に伴う若手・中堅教員の新規採用に関する中期的な人事計画を策定し、この人事計画に基づく計画的な採用を行うことにより、教員配置の適正化を図ることとする。 なお、年齢層の高い専任教員の定年退職に伴う若手・中堅教員の新規採用を行う際には、本学の教員選考規程等で定める審査基準に基づいて、厳格なる審査を経て採用することとし、教育の質の保証の観点から、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教員を採用するとともに、採用後も授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施を通して、継続的な教員の資質の維持向上に努めることとする。 また、教員の年齢構成については、完成年度以降（令和6年度）の計画として、39歳以下が3人、40～49歳が4人、50～59歳が10人、60～64歳が2人となる計画とする。	採用計画について検討し、年齢層の高い専任教員の定年退職に伴う若手・中堅教員の新規採用に関する中期的な人事計画を策定し、この人事計画に基づく計画的な採用を行うことにより、教員配置の適正化を図ることとする。 なお、年齢層の高い専任教員の定年退職に伴う若手・中堅教員の新規採用を行う際には、本学の教員選考規程等で定める審査基準に基づいて、厳格なる審査を経て採用することとし、教育の質の保証の観点から、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教員を採用するとともに、採用後も授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施を通して、継続的な教員の資質の維持向上に努めることとする。 また、教員の年齢構成については、完成年度以降（平成36年度）の計画として、39歳以下が3人、40～49歳が4人、50～59歳が10人、60～64歳が2人となる計画とする。												
事業創造学部事業創造学科 <u>（削除）</u> 専任教員配置計画 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="245 1464 440 1559">教員配置計画</td><td data-bbox="440 1464 790 1559"></td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="245 1559 790 1704">令和2年度～令和5年度（完成年度）中完成年度までの年次進行中における若手教員採用計画</td></tr> <tr> <td data-bbox="245 1704 440 1991">採用活動予定</td><td data-bbox="440 1704 790 1991"> 完成年度までの年次進行中において、公募等により以下の教員の採用を計画する。 ・博士の学位、大学等における教育歴、経営学 </td></tr> </table>	教員配置計画		令和2年度～令和5年度（完成年度）中完成年度までの年次進行中における若手教員採用計画		採用活動予定	完成年度までの年次進行中において、公募等により以下の教員の採用を計画する。 ・博士の学位、大学等における教育歴、経営学	事業創造学部事業創造学科 <u>完成年度以降</u> の専任教員配置計画 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="805 1464 1007 1559">教員配置計画</td><td data-bbox="1007 1464 1361 1559"></td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="805 1559 1361 1704">(追加)</td></tr> <tr> <td data-bbox="805 1704 1007 1991">(追加)</td><td data-bbox="1007 1704 1361 1991">(追加)</td></tr> </table>	教員配置計画		(追加)		(追加)	(追加)
教員配置計画													
令和2年度～令和5年度（完成年度）中完成年度までの年次進行中における若手教員採用計画													
採用活動予定	完成年度までの年次進行中において、公募等により以下の教員の採用を計画する。 ・博士の学位、大学等における教育歴、経営学												
教員配置計画													
(追加)													
(追加)	(追加)												

	<u>分野に関する研究実績を有する若手教員</u> <u>・ 高度の実務の能力を有する若手教員</u> <u>以上の若手教員を年度進行中に複数名を前倒しで採用する。</u> <u>その後も採用活動を継続して令和 6 年度開始時点では完成年度に定年年齢を超える教員数に相当する若手・中堅教員の確保をする。</u>		
令和 5 年度（完成年度） 末		令和 5 年度（完成年度） 末	
退職予定	・ 定年規定により教授 7 名、准教授 2 名が退職予定 ※教授 7 名、准教授 2 名は就業規則附則第 3 項の規程に基づき雇用延長	退職予定	・ 定年規定により教授 7 名、准教授 2 名が退職予定 ※教授 7 名、准教授 2 名は就業規則附則第 3 項の規程に基づき雇用延長
昇格予定	・ 経営学分野の准教授 1 名及び法学分野の准教授 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき教授に昇格予定 ・ 会計学分野の講師 1 名及び社会学分野の講師 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき准教授に昇格予定 ・ 会計学分野の助教 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき講師に昇格予定	昇格予定	・ 経営学分野の准教授 1 名及び法学分野の准教授 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき教授に昇格予定 ・ 会計学分野の講師 1 名及び社会学分野の講師 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき准教授に昇格予定 ・ 会計学分野の助教 1 名について、教育研究業績等の評価に基づき講師に昇格予定

新規採用 予定	※令和２年度～令和５年度において採用した若手教員を含め、令和６年度開始時点では完成年度に定年年齢を超える教員数に相当する若手・中堅教員の確保をする。 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授４名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の教授２名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する若手の准教授２名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、会計学分野に関する研究実績を有する若手の助教１名を採用	新規採用 予定	(追加) ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授４名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の教授２名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する若手の准教授２名を採用 ・公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、会計学分野に関する研究実績を有する若手の助教１名を採用
令和６年度～令和９年度		令和６年度～令和９年度	
退職予定	・定年規定により教授１名、准教授２名が退職予定	退職予定	・定年規定により教授１名、准教授２名が退職予定
新規採用 予定	・公募等により、博士の学位、大学等における	新規採用 予定	・公募等により、博士の学位、大学等における

	教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授 1 名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の准教授 2 名を採用		教育歴、経営学分野に関する研究実績を有する中堅の教授 1 名を採用 ・公募等により、高度の実務の能力を有する中堅の准教授 2 名を採用

(改善事項) 事業創造学部 事業創造学科

6 【全体計画審査意見 18 の回答について】

＜電子ジャーナルが十分か疑義＞

大学の教育研究に必要な専攻分野の電子ジャーナルが十分整備されているのか懸念されるため、教育研究の観点から十分であることを説明するか、電子ジャーナル数を充実させること。

(対応)

教育研究の観点から、電子ジャーナル数について再検討し、事業創造学部の専門分野に関する電子ジャーナル(学術洋雑誌)計 11 種を購入し、学術和雑誌を含め充実を図ることとした。

【資料 5】電子ジャーナルリスト(事業創造学部)

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類(55-56 ページ)

新	旧
(3) 図書等の資料および図書館の整備計画 紫竹山キャンパス内に、教育・研究に必要なとなる図書等を整備するために図書館を設ける。また、米山キャンパスは校舎内に図書室を設け、情報学部に関する専門図書を整備し、プログラム言語の発展が学習できる展示を行う。 紫竹山キャンパス内の図書館は全学部が共有で利用可能な施設として、1 階に書庫並びに図書閲覧席を設け、2 階には図書閲覧室兼レファレンスルームを設置する。閲覧座席数は 105 席であり、主に事業創造学部に関連する専門書および学術雑誌を主として整備し、教育・研究に資する。 開学当初に紫竹山キャンパスに整備する図書等は以下の通りである。 ・基礎・教養分野：703 冊 ・経営学分野：<u>1,726</u> 冊 (内国書 1,651 冊、外国書 55 冊、学術和	(3) 図書等の資料および図書館の整備計画 紫竹山キャンパス内に、教育・研究に必要なとなる図書等を整備するために図書館を設ける。また、米山キャンパスは校舎内に図書室を設け、情報学部に関する専門図書を整備し、プログラム言語の発展が学習できる展示を行う。 紫竹山キャンパス内の図書館は全学部が共有で利用可能な施設として、1 階に書庫並びに図書閲覧席を設け、2 階には図書閲覧室兼レファレンスルームを設置する。閲覧座席数は 105 席であり、主に事業創造学部に関連する専門書および学術雑誌を主として整備し、教育・研究に資する。 開学当初に紫竹山キャンパスに整備する図書等は以下の通りである。 ・基礎・教養分野：703 冊 ・経営学分野：<u>1,716</u> 冊 (内国書 1,651 冊、外国書 55 冊、学術和雑

雑誌 <u>10</u> 点、学術洋雑誌 <u>8</u> 点(内電子ジャーナル <u>8</u> 点)、視聴覚資料等 <u>2</u> 点) ・マーケティング分野：<u>414</u> 冊 (内国書 409 冊、外国書 1 冊、学術和雑誌 1 点、学術洋雑誌 3 点(内電子ジャーナル <u>3</u> 点)) ・会計学分野：<u>922</u> 冊 (内国書 919 冊、外国書 2 冊、学術和雑誌 <u>1</u> 点) ・関連諸分野：<u>251</u> 冊 (内国書 245 冊、外国書 5 冊、学術和雑誌 1 点) 米山キャンパスに設置する図書室 (<u>162.38 m²</u>) は情報学部に関する専門書および学術雑誌を主として整備し、閲覧座席数は<u>情報学部の収容定員の 2 割にあたる 64</u> 席設け、学生の自習にも利用可能とし、教育・研究に資する。 開学当初に米山キャンパスに整備する図書等は以下の通りである。 ・基礎・教養分野：<u>702</u> 冊 ・情報学分野：<u>1,418</u> 冊 (内国書 1,361 冊、外国書 38 冊、学術和雑誌 <u>8</u> 点、学術洋雑誌 <u>10</u> 点(内電子ジャーナル <u>10</u> 点)、視聴覚資料等 1 点) ・AI・IOT 応用分野：<u>1,044</u> 冊 (内国書 1,013 冊、外国書 20 冊、学術和雑誌 4 点、学術洋雑誌 <u>6</u> 点(内電子ジャーナル <u>6</u> 点)、視聴覚資料等 1 点) ・経営・マーケティング分野：<u>474</u> 冊 (内国書 469 冊、外国書 5 冊) ・関連諸分野：<u>259</u> 冊 (内国書 257 冊、外国書 1 冊、学術和雑誌 1 点) (中略)	雑誌 <u>6</u> 点、学術洋雑誌 <u>2</u> 点 (<u>追加</u>)、視聴覚資料等 <u>2</u> 点) ・マーケティング分野：<u>411</u> 冊 (内国書 409 冊、外国書 1 冊、学術和雑誌 1 点、(<u>追加</u>)) ・会計学分野：<u>921</u> 冊 (内国書 919 冊、外国書 2 冊、(<u>追加</u>)) ・関連諸分野：<u>251</u> 冊 (内国書 245 冊、外国書 5 冊、学術和雑誌 1 点) 米山キャンパスに設置する図書室 (<u>追加</u>) は情報学部に関する専門書および学術雑誌を主として整備し、閲覧座席数は <u>43</u> 席設け、学生の自習にも利用可能とし、教育・研究に資する。 開学当初に米山キャンパスに整備する図書等は以下の通りである。 ・基礎・教養分野：<u>702</u> 冊 ・情報学分野：<u>1,404</u> 冊 (内国書 1361 冊、外国書 38 冊、学術和雑誌 <u>3</u> 点、学術洋雑誌 <u>1</u> 点 (<u>追加</u>)、視聴覚資料等 1 点) ・AI・IOT 応用分野：<u>1,039</u> 冊 (内国書 1013 冊、外国書 20 冊、学術和雑誌 4 点、学術洋雑誌 <u>1</u> 点 (<u>追加</u>)、視聴覚資料等 1 点) ・経営・マーケティング分野：<u>474</u> 冊 (内国書 469 冊、外国書 5 冊) ・関連諸分野：<u>259</u> 冊 (内国書 257 冊、外国書 1 冊、学術和雑誌 1 点) (中略)
---	---

審査意見への対応を記載した書類

資料目次

- 【資料1】 アドミッション・オフィス選抜を受験する学生に求める書類
「学修計画書書式」「志望動機書書式」
- 【資料2】 新キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス（授業計画）
- 【資料3】 旧キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ シラバス（授業計画）
- 【資料4】 事業創造学部 事業創造学科 カリキュラム体系図
- 【資料5】 電子ジャーナルリスト（事業創造学部）

審査意見への対応を記載した書類

【資料 1】

学修計画書

(鉛筆不可、黒の筆記具使用)

2020年度 開志専門職大学	
入学選考試験	
受験番号	※記入しないでください。

フリガナ 氏名	志願 学部	学部	志願 学科	学科
------------	----------	----	----------	----

あなたが志望する学部・学科で、志望動機書に記載した将来の目標を実現するために、どのような「知識」「能力」を身に付けたいのか、その「知識」「能力」を身に付けるためにどのような学習をしたいのかを計画し、志願者本人が自筆にて所定欄内に記入してください。

1. 将来の目標について簡潔に記入してください。

2. 将来の目標を実現するために、身に付けたい「知識」「能力」について記入してください。

3. 2の「知識」「能力」を身に付けるために、どのような学習をしたいのかを計画し、記入してください。

志 望 動 機 書

(鉛筆不可、黒の筆記具使用)

2020年度 開志専門職大学	
入学選考試験	
受 験 番 号	※記入しないでください。

フリガナ 氏名	志願 学部	学部	志願 学科	学科
------------	----------	----	----------	----

本学当該学部を志願する理由について、根拠となる事実や自己の経験・体験、将来の目標を踏まえたうえで志願者本人が自筆・横書きで400字以内で記入してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															

審査意見への対応を記載した書類

【資料 2】

【資料5－1】 新 キャリアデザインⅠシラバス

授業科目

キャリアデザインⅠ

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	情報学科
北野奈々子		開講時期	①	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】 キャリアデザインとは、理想とする将来の自分を実現するためにどのような仕事・職業や働き方が相応しいかを考え、目標設定を行い、実現に向けて設計することであり、「キャリア」とは単なる職歴ではなく、今後の生き方や働き方という意味合いがあることについて理解する。そのうえで、人生や仕事において自分自身のなりたいた姿を描くことについて理解し、個々の夢や目標を実現するための心のあり方や目標設定の仕方、振り返り、生じた問題への対処法など、目標に対して具体的にアプローチするための実践行動に関する知識と技法について学習する。					
【学習目標】 1. キャリア及びキャリアデザインの概念や意義と目的、キャリア形成において必要となる基礎的・汎用的能力を理解する。 2. 議論の目的と進め方や議論をまとめる方法や手法について理解する。 3. キャリアデザインに必要な基本的理論を理解する。 4. 目標設定や目標管理の意味と種類や方法など目標設定理論について理解する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	キャリアデザインの概念、キャリア形成において育成すべき能力の理解：キャリアデザインの概念、意義、目的及びキャリア形成において必要となる基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を理解する。（この四つの能力は中央教育審議会が「社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして示した「基礎的・汎用的能力」）			1	講義
2	ファシリテーション論の理解：議論の目的と進め方や議論をまとめる方法や手法について理解する。			2	講義
3	ファシリテーションの実践：議論の場面を設定し、議論の進め方の問題点や解決方法を理解する。			2	ロールプレイング
4	キャリアデザインに必要なとなるキャリア理論の理解：ドナルド・スーパーの「ライフ・キャリア・レインボウ（人生における役割とキャリアの関係を図式化したもの）」などを手掛かりに、キャリア理論の基礎的諸概念を理解する。			3	講義
5	モチベーション論の理解 内容：様々なモチベーション論の提示する諸概念を理解する。			4	講義
6	目標設定と目標管理の方法の理解：目標設定と目標管理に関する方法を講義するとともに、成功例や失敗例を取り上げて、目標設定の効果が最大化される条件を考察する。			4	講義、事例研究、ディスカッション
7	目標設定の実践①：目標設定シートの作成方法と目標設定シートの有効的な活用方法について理解する。			4	演習
8	目標設定の実践②：目標設定シートの作成と発表を通して、目標の質を高めることについて理解する。			4	ディスカッション
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 （必ず購入する書籍）		毎回、授業レジュメを配付する。			
参考書		キャリア教育基礎論－正しい理解と実践のために－	藤田晃之	実業之日本社	2014年10月
		ファシリテーション入門（第2班）	堀公俊	日本経済新聞出版社	2018年
		ワーク・モチベーション	ゲイリー・レイサム、金井壽宏	NTT出版	2009年6月
その他の資料		適宜、ワークシートを配付する。			
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・ワークシート、アクションプランの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。			

【資料5－2】 新 キャリアデザインⅡシラバス

授業科目

キャリアデザインⅡ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	情報学科
北野奈々子		開講時期	②	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】					
他者と協調・協働して行動できる態度や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成する。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について理解するとともに、集団や組織の場合あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習し、他者を理解する視点についての考察を通して、自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方についての理解を深め、他者との円滑な信頼関係の構築に取り組むことができる姿勢を養う。					
【学習目標】					
1. キャリアデザインの概念、チームの力を最大化するための方法を理解する。 2. チームワークの意義や定義と重要性及びグループとチームの違いについて社会学やキャリア理論を踏まえ理解する。 3. リーダーシップの意味や定義と種類及び能力や要素と開発方法について理解する。 4. 他者との円滑な信頼関係の構築とコミュニケーションのあり方について社会学をベースに理解する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	キャリアデザインの概念、チームの力を最大化するための方法の理解：仕事を進めるうえでの基礎力となる対人能力、対自己能力、対課題能力、処理力・思考力を理解する。			1	講義
2	チームワーク、協働力の重要性の理解：チームワーク、協働力の意義や定義と重要性及びグループとチームの違いについて社会学やキャリア理論を踏まえて理解する。			2	講義
3	チームワーク、協働力に関する事例研究①：仕事におけるチームワークのあり方や協働力の重要性について、事例を取り上げて考察する。			2	事例研究
4	チームワーク、協働力に関する事例研究②：社会・組織・集団における人間関係のあり方について、事例を取り上げて考察する。			2	事例研究
5	統率力、リーダーシップ理論、動機づけ理論の理解：リーダーシップの意味や定義と種類及び能力や要素と開発方法について理解する。			3	講義
6	会話コミュニケーションによる相互信頼感形成に向けた理解 ：会話コミュニケーションを通じた合意形成が人間関係としての心理的な相互信頼感の構築にどのように影響するかを理解する。			4	講義
7	組織マネジメントとリーダーシップとの関係性の理解：目的や方向に向かって多くの人々をまとめて率いるための方法について考察する。			3・4	事例研究
8	他者との協調・協働の考察：他者と協調・協働して行動することの重要性や留意点について考える。			3・4	ディスカッション
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		毎回、授業レジュメを配付する。			
参考書		キャリアデザイン入門〔Ⅰ〕	大久保幸夫	日本経済新聞出版社	2006年3月
		ハーバード・ビジネス・レビューコミュニケーション論文ベスト10『コミュニケーションの協会書』	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社	2018年12月
その他の資料		適宜、ワークシートを配付する。			
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・ワークシート、アクションプランの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 履修条件：キャリアデザインⅠの単位を修得済みの者の講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。			

【資料5－3】 新 キャリアデザインⅢシラバス

授業科目

キャリアデザインⅢ

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	情報学科
北野奈々子		開講時期	②	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】					
学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を身に付け、自己の個性を理解したうえで主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成するとともに、業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図る。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について理解し、生涯にわたり学習の活動を続けていくことの必要性和学習の手段や方法を理解する。					
【学習目標】					
1. キャリアデザインの概念、プロフェッショナルキャリアの概念理解する。 2. 仕事の選び方や仕事を選ぶときに重視する項目など職業選択について理解する。 3. 職業選択のための基礎知識として、業界・業種・職種などへの理解を深める。 4. 自分の個性や性格を理解するための自己分析の目的と自己分析の方法について理解する。 5. 生涯学習の意義と方法や生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育について理解する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	キャリアデザインの概念、プロフェッショナルキャリアの理解：プロの専門職業人として活躍するための条件、道筋、必要なスキルを理解する。			1	講義
2	職業選択のための考え方の理解：キャリアアンカー（最重要な価値観）の理論を踏まえて、仕事の選び方や仕事を選ぶときに重視する項目など職業選択について理解する。			2・3	講義
3	企業の人事担当者からの学び：企業理念や経営方針と企業の仕組み及び企業が求める人材像について考察する。			2・3	ゲストスピーカー
4	専門職業人からの学び：職業選択のための基礎知識として、業界・業種・職種などへの理解を深める。			3	ゲストスピーカー
5	企業についての研究と考察：業界・業種・職種毎に企業が求める人材像と企業の仕組みについて考える。			3	ディスカッション
6	自己分析の目的と方法の理解：自分の個性や性格を理解するための自己分析の目的と自己分析の方法について理解する。			4	講義
7	自己分析の実践：自分史の作成と発表を通して、自分の資質や能力についての認識を深める。			4	演習、ディスカッション
8	生涯現役のキャリアデザインについて考える：生涯学習の意義と方法や生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育について理解する。			5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		毎回、授業レジュメを配付する。			
参考書		キャリアデザイン入門〔Ⅱ〕	大久保幸夫	日本経済新聞出版社	2006年3月
その他の資料		適宜、ワークシートを配付する。			
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・自己分析の深度、ワークシートの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 履修条件：キャリアデザインⅡの単位を修得済みの者 講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。			

審査意見への対応を記載した書類

【資料 3】

【資料6－1】 旧 キャリアデザインⅠシラバス

授業科目

キャリアデザインⅠ

【担当教員名】 北野 奈々子	対象学年	1	対象学科	事業創造学科
	開講時期	①	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【概要】 キャリアデザインとは、理想とする将来の自分を実現するためにどのような仕事・職業や働き方が相応しいかを考え、目標設定を行い、実現に向けて設計することであり、「キャリア」とは単なる職歴ではなく、今後の生き方や働き方という意味合いがあることについて理解する。そのうえで、人生や仕事において自分自身のなりたい姿を描くことについて理解し、個々の夢や目標を実現するための心のあり方や目標設定の仕方、振り返り、生じた問題への対処法など、目標に対して具体的にアプローチするための実践行動に関する知識と技法について学習する。				
【学習目標】 1. 基礎知識の理解・修得 2. 自己分析と業界分析 3. アクションプランの作成				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ガイダンス キャリアデザインの概念と目的の理解		1・2	事例研究、ディスカッション
2	目標設定の段階的手法の理解、意欲的な目標設定		1・2	事例研究、ディスカッション
3	プラス思考の重要性の理解、思考の変化と行動の関係性の理解		1・2	事例研究、ディスカッション
4	専門職業人からの学び		1・2	ゲストスピーカー講義、ディスカッション
5	目指す将来像シートの完成		1・2	事例研究、ディスカッション
6	社会に出ていくために必要な考え方の理解		1・2	事例研究、ディスカッション
7	働く目的と自立の関係性の理解		1・2	事例研究、ディスカッション
8	目指すライフスタイルとライフプランの設計、行動計画策定		1・2・3	事例研究、ディスカッション
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>
教科書 (必ず購入する書籍)	・社会でいきる実践ビジネスマナー		株式会社ウィネット	会社ウィネット
	・勝つための就職ガイド SUCCESS		株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
参考書	大人の常識！マナーハンドブック		株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
その他の資料	SUCCESS別冊ワークシート		株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・自己分析の深度、アクションプランの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。		

【資料6－2】 旧 キャリアデザインⅡシラバス

授業科目

キャリアデザインⅡ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	事業創造学科
北野 奈々子		開講時期	②	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】					
他者と協調・協働して行動できる態度や他者に方向性を示し、目標を達成するために動員できる能力を養成する。集団に属しているメンバーが同じ目標を達成するために行う作業、協力、意識、行動について理解するとともに、集団や組織の場合あるいは個人的な場における感情的な面も含めた人間と人間の関係について学習し、他者を理解する視点についての考察を通して、自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係などの理解と人間関係の多様なあり方についての理解を深め、他者との円滑な信頼関係の構築に取り組むことができる姿勢を養う。					
【学習目標】					
1. 基礎知識の理解・修得 2. 自己分析と自己と他者との関係、他社相互間の関係などの理解 3. 企業の概要の理解 4. 目標達成するために必要となる計画とアクションプランの必要性の理解					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ガイダンス 授業目的紹介、ルールと諸注意			1	演習
2	目標達成に向けた作業、協力、意識、行動についての理解			1・2・3	演習
3	他者との協働の理解			1・2・3	演習、ロールプレイング
4	組織活動における問題解決に向けた発想、考え方の理解			1・2・3	演習、プレゼンテーション
5	自律した専門職業人に向けた心構えの理解			1・2・3	演習、事例研究
6	円滑な人間関係構築のための必要性項目の理解			1・2・3	演習、事例研究
7	信頼関係構築のための理解			1・2・3	演習、事例研究
8	行動計画の策定の考え方			3	演習、プレゼンテーション
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		・社会でいきる実践ビジネスマナー	株式会社ウィネット	会社ウィネット	2016年2月
		・勝つための就職ガイド SUCCESS	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット	2016年2月
参考書		大人の常識！マナーハンドブック	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット	2016年2月
その他の資料		SUCCESS別冊ワークシート	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット	2016年2月
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・自己分析の深度、アクションプランの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 履修条件：キャリアデザインⅠの単位を修得済みの者 講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。			

【資料6－3】 旧 キャリアデザインⅢシラバス

授業科目

キャリアデザインⅢ

【担当教員名】 北野 奈々子	対象学年	3	対象学科	事業創造学科
	開講時期	②	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15
【概要】 学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を身に付け、自己の個性を理解したうえで主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観を養成するとともに、業界・業種・職種などの企業研究や企業が求める人材像、企業の仕組みなど職業理解を図る。また、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について理解し、生涯にわたり学習の活動を続けていくことの必要性和学習の手段や方法を理解する。				
【学習目標】 1. 基礎知識の理解・修得 2. 自己分析と業界分析 3. アクションプランの作成				
単元・回数	授業計画又は学習の主題	学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
1	ガイダンス、社会に出ていくために必要な考え方の理解	1		
2	自己の個性及び価値観の分析・理解	2	演習	
3	企業が求める人材像についての研究	2	ゲストスピーカー講義、グループ討議	
4	企業人がもつ職業観・勤労観の研究	2	ゲストスピーカー講義、グループ討議	
5	企業研究の仕方とそのポイント	2	演習	
6	職業選択の考え方や進め方の理解	2	演習、グループ討議	
7	生涯学習の手段と方法の理解	2・3	演習、グループ討議	
8	キャリアデザインの総括	3	演習、プレゼンテーション	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>
教科書 (必ず購入する書籍)		・社会でいきる実践ビジネスマナー	株式会社ウィネット	会社ウィネット
		・勝つための就職ガイド SUCCESS	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
参考書		大人の常識！マナーハンドブック	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
その他の資料		SUCCESS別冊ワークシート	株式会社ウィネット	株式会社ウィネット
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・自己分析の深度、アクションプランの内容による評価（50%） ・活発に授業参加するための積極的行動（50%）		【履修上の留意点】 履修条件：キャリアデザインⅡの単位を修得済みの者 講義の理解深度を含め、個々の学生の主体的姿勢が求められる。		

審査意見への対応を記載した書類

【資料 4】

科目区分	CP	1年次				2年次				3年次				4年次			
		①期	②期	③期	④期	①期	②期	③期	④期	①期	②期	③期	④期	①期	②期	③期	④期
基礎科目	①日本語による文章表現や口頭表現の能力と外国語によるコミュニケーション能力及び情報活用や情報管理の能力を高める科目を配置する。	◎英語コミュニケーションⅠ①		◎英語コミュニケーションⅡ①		◎英語プレゼンテーション演習Ⅰ①		◎英語プレゼンテーション演習Ⅱ①						△中国語コミュニケーション① △韓国語コミュニケーション① △ロシア語コミュニケーション①			
	②職業人として必要な職業意識や職業観と規範意識及び職業選択力や生産学習力と現代社会に関する幅広い知識を理解する科目を配置する。	◎ビジネスモラル① ○現代産業論② ○現代経済学② ○現代実践法学②		◎現代企業論② ○現代社会学② ○現代史と国際関係論② ○現代の科学技術②						○国際動向論②							
	◎キャリアデザインⅠ①		◎キャリアデザインⅡ①				◎キャリアデザインⅢ①										
職業専門科目	③経営の意義や役割と企業経営の管理や組織に関する理解及び経営倫理と経営に関連する経済や法律の知識を身に付ける科目を配置する。	◎経済学の基礎② ◎経営学の基礎②		◎経営戦略論②		◎経営組織論②		◎経営戦略策定演習②		○グローバル社長学②				○実践企業革新②			
	④マーケティングの意義や役割についての理解とマーケティング活動を適切かつ計画的に行うための能力を身に付ける科目を配置する。	◎マーケティング②		◎デジタルマーケティング②		○流通論の基礎②		○消費者行動研究②		○実践的統計学②		○広報戦略の実践②					
	⑤会計の意義と役割や目的と分類、会計の仕組みについての理解とともに、適正な会計処理を行うための能力を身に付ける科目を配置する。	◎簿記概論②		◎簿記演習①		◎会計学①		◎財務諸表論①		◎財務諸表分析②		◎資金調達の実践②					
	⑥顧客満足を実現することの重要性について理解するとともに、商品を企画・開発し、販売活動を行う能力を身に付ける科目を配置する。			◎ビジネスコミュニケーション② ◎ビジネスプランの基礎②		◎ビジネスプランの応用② ◎新規商品開発・販売実習Ⅰ⑤		◎新規商品開発・販売実習Ⅱ⑤									
	⑦起業、事業承継、企業内起業に関する知識の理解と地域産業が果たす役割や現状と課題などに関する知識を身に付ける科目を配置する。	◎トップランナー研究①		◎アントレプレナーシップ論② ◎トップランナー研究①		◎ビジネスモデル研究②		◎実践ベンチャービジネス① ◎会社設立実習Ⅰ④		◎イノベーションマネジメント② ◎会社設立実習Ⅱ④		○ICT活用ビジネス② ○会社設立実習Ⅲ④ ○実践事業承継② ○事業承継演習②		○地域産業研究Ⅵ(ICT)② ○地域産業研究Ⅶ(まちづくり)② ○地域産業研究Ⅷ(カルチャー・エンタテイメント)②			
	⑧経営管理、マーケティング、会計に関する知識と技術を実践的な活動を通して、総合的に応用できる能力を身に付ける科目を配置する。			◎企業内実習Ⅰ②				◎企業内実習Ⅱ④		◎企業内実習Ⅲ⑥							
	⑨地域資源を商品開発に活用するための知識や方法と高い付加価値を生み出すための問題を解決する考え方を身に付ける科目を配置する。	◎新潟と地域社会②		◎新潟と地域政策②		◎新潟と地域資源②				◎地域資源活用の理論と方法②		◎地域資源活用事例研究②		◎地域資源活用実習②			
総合科目	⑩地域資源を活用した新商品や新サービスの企画・開発に関する体験を通し、講義や演習で得た知識と技術の総合化を図る科目を配置する。													◎事業計画策定総合実習④			

審査意見への対応を記載した書類

【資料 5】

【資料5】 電子ジャーナルリスト(事業創造学部)

No	タイトル	出版社名
1	Academy of Management Journal	Academy of Management
2	Journal of Marketing	Sage Publications Ltd.
3	Journal of Business Venturing	Elsevier Science
4	Journal of Consumer Research	Oxford University Press
5	Journal of Mangement	Sage Publications Ltd.
6	Journal of Service Research	Sage Publications Ltd.
7	Entrepreneurship Theory and Practice	Sage Publications Ltd.
8	Academy of Management Review	Academy of Management
9	Research Policy	Elsevier Science
10	Strategic Management Journal	John Wiley & Sons Ltd.
11	Entrepreneurship and Regional Development	Sage Publications Ltd.

